

農業委員会だより No.102

農地パトロール実施中！

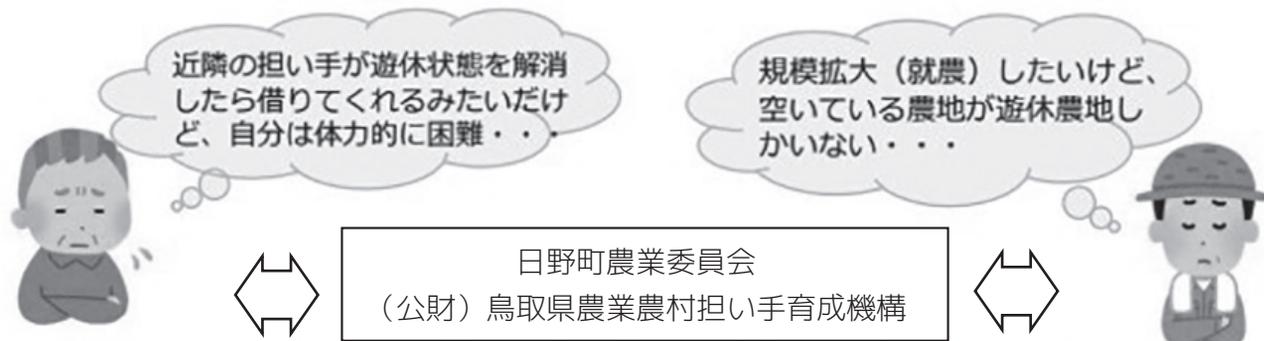
今年も8月～10月の期間にかけて、農地パトロール（利用状況調査）を実施しています。令和5年度は、コロナ禍の影響による米価の下落等を受けて、遊休農地となっている田畑が増加しているように見受けられます。米価も多少持ち直しましたが、物価が高騰しているため生産経費もかさみ、依然として厳しい状況となっています。

そのような中であって、優良農地を遊休化させることは、とてももったいないことです。もし、さまざまな理由により、遊休化している農地をお持ちでしたら、農業委員会が担い手を探し、農地中間管理事業の一環として、農地の利用権設定を行います。ぜひ、ご相談ください。

あわせて、遊休農地の耕作を引き受けてもよいという方がありましたら、農業委員までご連絡をお願いします。

なお、令和5年度の法改正により、農地の貸し借りに関する手続きが変わりました。従来の「貸す人」と「借りる人」の間に、「(公財)鳥取県農業農村担い手育成機構」を挟んでの貸し借りとなりますのでご承知おきください。

遊休化している農地について農業委員会が担い手を探します。まずは、お気軽にご相談ください。
※全ての農地をお預かりし、耕作を継続できるわけではありませんが、できる限り担い手をお探しします。



農地ナビを活用しましょう！

全国の農地の情報をインターネット上で公開しています。パソコン、スマートフォンのどちらでも閲覧できます。

検索！

農地ナビ



URL <https://map.maff.go.jp>

ふるさとで農業を。 次世代農業者を育てる親元就農

父：松本 洋一 さん

子：松本 実奈 さん

令和5年8月から、株式会社優裁代表取締役である松本洋一さん（父）の元で、松本実奈さん（子）が水稻栽培に関する親元就農研修をスタートしました。同社は、町内でも最大規模（約30畝）の水稻管理面積を誇る農業経営法人。その事業を継承するべく研修を始めた親子の取り組みを紹介します。



●親元就農研修を始めたきっかけ

「子どもころは、自分が将来農業を始めるなんて思ってもいなかった」と、幼少時代を振り返った実奈さん。周りがゴールデンウィークなどの休みで旅行に行く中、松本家はどこにも連れて行ってもらえなかった苦しい思い出がありました。

しかし、実奈さんが3人目の子どもを出産し、少し生活が落ち着いたころ。家計を助けるため父の仕事を手伝っていた際、配達先のお客さんから「優裁のお米はおいしい」と、お客さんから褒められたことがあります。その言葉を聞き、「父が担ってきた米作りを絶やしてはならない」と思ったそうです。

●米作りを始めてみて大変なこと

「正直、始めは、父（洋一）ができるのであれば、私（実奈）もできるという甘い考えがあった」と笑う実奈さん。しかし、実際には、暑い中草刈りや精米



▲父の元で農業を学ぶ実奈さん

などの作業を長時間行うことも多く、繁忙期には、休みもない。父が簡単そうにやっていた水管理や収穫の時期の判定方法なども、一朝一夕には、なかなか覚えられません。

「まだ、始めたばかりということもあり、日々新しい発見や学びがあります。それが新鮮で、やりがいに繋がっている」と、農業の奥深さを実感しています。

●娘に継承したいこと

「娘に継承したいことは、いっぱいある」と語る父、洋一さん。本格的に農業を始めて45年となりますが、これまで安心、安全なおいしい米づくりを目指し、特別栽培米に取り組んできました。過去には、それらの取り組み

みが認められ、新嘗祭での天皇陛下（現・上皇さま）への栽培米の献上や、全農主催の全国米・食味鑑定コンクール国際大会での金賞などを受賞しています。「娘にも、ぜひ、多くの人からおいしいと言ってもらえる安心、安全な良い米づくりを引き継いでもらいたい。そして、自分の時代には無かったインターネット通販などを通じて、より多くの人に自慢の米を届けていってもらいたい」と、実奈さんの今後に期待を寄せていました。

●今後の目標

今後の目標は、親子2代での全国コンクール金賞受賞。夢は大きく、現実になるよう学んでいきます。



▲ふるさと納税でも好評の特別栽培米の精米作業。